

# スノーモビルの 仕様

クラス名称	排気量範囲		ゼッケンカラー
	2 ストローク	4 ストローク	
S Jクラス	1～125cc以下		黒地に白文字
S 3クラス	500cc以下	1000cc以下	A級 青地に白文字
S 2クラス	600cc以下	1200cc以下	
S 1クラス	オープン	オープン	B級 白地に黒文字
スーパークラス	オープン	オープン	赤地に白文字

## 出場車両

- 1) 車両はMFJで公認されたもの。
- 2) 車両は国内競技規則に示されているすべての条項に適合していること。
- 3) 公認された型式（モデル）であることは、参加者に証明の義務がある。型式の判明できない車両は公認車両と認められない。
- 4) 承認競技会においては大会特別規則によるが、以下の安全基準を満たすものとする。

## 1 車両の安全基準（すべての部門に適用）

スノーモビルレースに出場する車両は、次の安全基準を満たしていなければならない。この基準を満たさない場合、基準に合致させるための改造が義務づけられる。

- 1) エンジン自動停止装置（ティザースイッチ）
  - (1) ライダーが走行中車両から離れた場合にエンジンが自動的に停止する装置を装着していなければならない。
  - (2) 自動停止装置はレース全区間（公式練習、パドック走行も含む）で有効に働く状態でなければならない。
  - (3) 本基準に違反したライダーは失格とする。

## 2) 排気管及び消音器

- (1) 車両は規定の音量規制値を満たしていなければならない。
- (2) 排気消音器はボディー側面より突出してはならない。
- (3) 排気管は、シュラウドまたは車体内部に収められていなくてはならない。
- (4) 車両には有効かつ外見で判断し得る市販の消音器が装着されていなければならない。

## 3) スノーフラップ

トラック最後端より後ろに有効なものを必ず装着し、公認時の形状を維持しなくてはならない。

## 4) スロットル

スロットルは手を離れた時に自動的に、スムーズに閉じるものでなくてはならない。

## 5) ドライブガード

ドライブガードは車両公認時のものでなくてはならず、改造、変更、取りはずしは認められない。

## 6) シュラウド

- (1) シュラウドを外してはならず、レース中に外れることのないよう、しっかりと固定されていなくてはならない。

## 7) スキー

- (1) 先端に弓形ガードを装置するなど安全を十分に確保しなくてはならない。
- (2) スキーランナーは各スキーに1本ずつの丸棒（断面は円型）で、溝や突起がなく、かつスキーの強度を維持させる形状でなくてはならない。スキースキンを取りつける場合であっても、スキーとスキーランナーの間に隙間を設けたり、ほかのプレート等をはさんではならない。

**超硬チップ（エッチ）ランナーの使用は禁止される。**

- (3) スキー側面は、R形状に丸められなくてはならない。
- (4) スキースキン（スキー底部の樹脂版の取り付けは認められるが、しっかりと固定されていなくてはならない。またスキースキンがスキーの幅を越える場合は、

側面に安全に丸められていなくてはならない。

8) トラック (キャタピラ)

- (1) 本体はゴム製でなくてはならない。
- (2) トラックに対してはいかなるものも付加してはならない。
- (3) 他機種のトラックを取付けることはできない。
- (4) トラックを逆方向に取りつけることはできない。

9) ブレーキ

車両にはトラックに作動する、有効なブレーキが装備されていなくてはならない。

10) コントロールレバー

すべてのハンドルレバー類は(ブレーキ、スロットル等)は、端部が丸くなっていなくてはならない。

11) 改造・変更の義務

下記部品の取り外しが義務づけられる。

- (1) 灯火器のレンズの取り外し。(取り外さない場合飛散防止を施すこと)
- (2) 保安部品(バックミラー、シールド、車両番号標、キャリア類)の取り外し。アシスタントグリップは取りはずさなくてもよい。

12) 音量

音量は下記の条件を満たしていなくてはならない。

- (1) 音量は、FIM 測定方式で104db/A 以内(ただし、パワーベルトを直結してある場合は、最大120db/A となる。) 以内でなければならない。これを上回る車両の出場は一切認められない。

◆音量測定の方法

- ① Vベルトは外さない(最大120dB/A 以下)
- ② 測定のためのマイク位置は排気管後端と同じ高さで排気管から50cm離れた所であつ、排気管後端の中心線から45°に設置する。これは少なくとも地上20cm以上でなくてはならないが、不可能な場合は45°上方で測定しても良い。
- ③ 測定の最中、ギヤボックスにニュートラルが無いマシンは、スタンドに乗せた状態で測定する。
- ④ ライダーはエンジンを回転させ、規定の回転数に達する

まで、回転を徐々に上げていかななくてはならない。(測定回転数6,000RPM)

- ⑤レース後の音量測定では、1 dB/A の誤差が認められる。
- ⑥測定は当規則によって行われ、測定対象車、測定の時期は競技監督が決定することができる。

#### ◆測定場所

- ①音が反響しない場所で測定する(壁、テント内等の反響に注意する。)
- ②測定場所の雪面をよく踏み固める。  
※全日本選手権の音量測定について
- ③スーパークラスは全車音量測定を実施する。
- ④競技監督の判断で全クラスの車両保管時に上位入賞1～6位の音量測定を実施する場合がある。

## 2 車両の改造限度

---

スポーツ部門、モディファイ部門においては下記部分の変更が認められる。前述の車両の安全基準と解釈が異なる部分は、下記改造限度の解釈が優先される。

### 1. スポーツ部門の仕様

公認車両に対して下記事項の仕様変更ができる。

ここに明記されていない部分は、すべて車両公認時のものでなければならない。

(仕様変更、改造とは各部の寸法の改造、形状の変更、軽量化を指す)

- (1) 点火プラグは変更することができる。
- (2) Vベルトは変更することができる。
- (3) バッテリーは取り外すことができる。
- (4) セルモーター、セル用ギヤは取りはずすことができる。
- (5) キャブレター内のジェット類は変更することができる。
- (6) スキーはその他の公認車両に装着されたものに交換することができる。
- (7) サスペンションスプリングはその他の公認車両に装着されたものに交換することができる。
- (8) ドライブチェーン、スプロケットは変更することができる。

- (9) ヘッドライトボディーは取り外すことができるが、外した場合の穴は完全にふさがなければならない。

## 2. モディファイ部門の仕様

公認車両に対して下記事項の仕様変更ができる。

ここに明記されていない部分は、すべて車両公認時のものでなければならない。

(仕様変更、改造とは各部の寸法の改造、形状の変更、軽量化を指す。)

- (1) 点火プラグは変更することができる。
- (2) Vベルトは変更することができる。
- (3) バッテリーは取り外すことができる。
- (4) セルモーター、セル用ギヤは取り外すことができる。
- (5) エンジン

エンジンパーツの研磨、及び軽量化をすることができるが、クランクケース本体、クランクシャフトアッセンブリーは改造、変更することはできない。

シリンダーの切削によるポートタイミングとポートエリアの変更、シリンダーヘッドの切削による圧縮比、燃焼室の形状変更ができる。

ピストン、ピストンリングは改造、変更することができる。

排気量はそのクラスの制限を越えなければ、直径0.5 mmを最大としてボアを拡大することができる。

- (6) ギヤレシオ、スプロケットは改造、変更することができる。
- (7) エキゾーストパイプ、サイレンサー及びその配列は改造、変更することができる。
- (8) キャブレーターは改造、変更することができるが、吸排気システムは変更することはできない。
- (9) コントロールレバー類及びケーブル、マスターシリンダー、キャリパー、ブレーキパッドまたはシュー、ブレーキホースは改造、変更することができる。
- (10) ハンドルバーは、その車両以外の公認車両のもの(二輪車用を含む)に変更することができ、かつ切削によりハンドル幅の変更はできるが、このハンドル幅変更

以外に形状の変更は認められない。ハンドルバーパッドを取りつけなければならない。ハンドルバーが公認車両のものであることは、参加者に証明の義務がある。

(11) スキーは改造、変更ができるが、安全基準は満たしていること。

(12) トラック（キャタピラ）

トラックは変更できる。（モデファイクラスのみ）ただし、トラック自体を改造したり、車体構造本体を変更、改造してはならない。

(13) サスペンション

フロントサスペンション、リヤサスペンションは改造、変更ができるが、フレームの基本骨格の変更（寸法変更、形状変更、軽量化を含む）が伴う改造は認められない。

(14) フレームとはフレームコンプリートの公認時の状態をいい、改造、変更は認められない。ただし、フレームの補強、フレーム強度に影響のないブラケット類の取り外し、及びリヤサスペンション取り付け位置（ピボット部）変更のための新たな穴明けは認められる。

(15) シュラウド

シュラウドに付属する部品、およびルーバー類は取りはずすことができる。ただしエンジン回転部分、排気管部分が露出されたり、直接手や足などが触れることのないよう処置されていなくてはならない。

エアーを導入するために通風孔を設けることができるが、直径10mmを越える場合はメタルガーゼ（4mm間隔以下の金属網）でカバーするが、同等のルーバー構造にしなくてはならない。

シュラウド・アッセンブリーは車両公認時と同等、またはそれ以上の強度を保っていなければならない。改造、部品の取り外しをした場合は必要に応じて補強をしなくてはならない。

### 3. スーパークラスの仕様について

改造限度は従来の許可されているモディファイ部門の仕

様に加え下記の仕様の変更ができる。

(車両の安全基準は従来どおりとする。よって音量規制値はVベルトをはずさない状態で最大120dB/A以下とする。)

- (1) エンジン本体(クランクケース)は車両公認時のものを使用しなければならないが、エンジン内部は自由に改造できる。
- (2) キャブレターは改造・変更することができる。(給排気システムも変更可)
- (3) フレームは車両公認時のコンプリートを使用しなくてはならないが、改造は可能とする。
- (4) サスペンションは改造変更できるが安全基準を満たしていること。

## 2004M F J 全日本スノーモビル選手権指定ゼッケンリスト

### スーパークラス

NO	氏名
1	松田 智典
2	戸沢 真司
3	川越 清貴
4	寺崎 雅史
5	日野 義克
6	熊谷 聡寛
7	橋場 久志
8	柴田 敏也
9	太田 昭徳
10	加藤 憲一
11	木村 明則
12	三好 一浩
13	佐野 敏之
14	栗屋 智博
15	成田 大昌
16	福田 純一
17	稲葉 翔
18	永倉 信明
19	佐々木 雅規
20	斎藤 一栄
21	佐藤 誠一郎
22	秋田 浩幸
23	泉 実
24	佐野 友介
25	金澤 巨樹
26	古坂 丈二
27	久保田 洋平
28	伊藤 栄治
29	戸田 幸廣
30	泉澤 克美
31	中澤 裕伺

### A 級

NO	氏名
1	黒澤 直也
2	松野 元
3	信平 竜馬
4	大久保 攻
5	沼田 誠司
6	熊谷 寛樹
7	田村 俊和
8	林 宏典
9	大和 長武
10	山道 徳年
11	河瀬 英明
12	伊賀 和弘
13	岩本 直也
14	坂上 敏幸
15	佐藤 学
16	桜庭 研児
17	玉井 峰夫
18	笹森 健彦
19	江花 秀一
20	入沢 英美

### B 級

NO	氏名
1	古澤 尚児
2	七木田 信也
3	伊藤 禎之
4	佐藤 利広
5	加藤 圭太
6	三上 広樹
7	菅野 孝徳
8	赤石 輝寿
9	中木 健太
10	谷口 竜次
11	太田 秀弥
12	佐藤 惠二
13	山川 健一
14	上野 耕平
15	平野 敬大
16	宮田 和男
17	三上 貴誉
18	庄司 光宏
19	松山 卓
20	芝崎 和裕
21	三上 僚太
22	尾藤 真誠
23	本川 政利
24	佐川 真俊
25	戸高 文晴
26	大槻 勝一
27	岡田 博行
28	佐々木 堅太郎
29	平野 敬大
30	佐藤 巧

### 3 MFJ スノーモビル公認車両

MFJ が主催または公認する競技会においては、この表にある MFJ に公認された車両を使用しなければならない。

S J クラス	1～125cc まで	
S 3 クラス	2 ストローク500cc 以下	4 ストローク1000cc 以下
S 2 クラス	2 ストローク600cc 以下	4 ストローク1200cc 以下

★スーパークラス、S 1 クラスにおいては、以下に記されているどのクラス用に公認された車両でも使用することができる。

2 ストローク (125cc 以下)	2 ストローク (500cc 以下)	
SV80	CS350(E)	FIRECAT500Sno-pro
SV125E	S340	ZR440Sno-Pro
	S250	Z440Sno-Pro(空冷)
	ET250	FORMULA-SL
	ET300	MXZ500-SP
	ET340	MXZ
	GPX330	FormulaSLS
	EC340	MXZ STD500
	TXL340	MXZX440LC
	S350T	INDYSPORTS
	S350DX	INDYLITE
	PZ480	INDY340
	PZ480ED	INDYTRAIL
	PZ480E	TXLINDY
	PZ480LT	INDYSuperSport
	PZ480SE	INDYXCFS
	PZ500	INDY440PROXFAN
	PZ500LT	INDY500SP
	S440	INDY400
	SS440	INDY-XCR440
	GPX430	INDY500EFI
	VT480E	INDY440XC
	VX500	INDY440XCR
	VX500SX	INDY500XCSP
	VX500XTC	INDY500XCSP
	ZR500	INDY500XCSP
		INDY440PROX

2ストローク (600cc 以下)	2ストローク (600cc 以上)	4ストローク (1000cc 以下)	4ストローク (1200cc 以下)
S540 EC540 EX570SX EX570LT SRX600S EX570(E) VX600(E・LT) VX600XTC VX600SX VX600LT VX600X SX600R FORMULA-Z MXZ583 FormulaⅢ INDYXLTSpecial INDYXCR600SP INDY600XC INDY600EDGEX INDY600XCSP	ZR800 ZR800EFI Firecat700EFI Sno-Pro 715Sno-Pro SRX700LT SRX700S SXviper SXviperMountain VX700SX VX700LT VX800(E-LT) SX700R SXV700ER SXV700 MX-Z800 Indy800PROX Indy800XC SP Indy700XC Indy700XCSP IndySTORM IndyUltraSPXSE IndyUltraSP MXZX800 ZR800EFI Indy800PROX INDY650 INDY650RXL	RX-1 RX-1MH	